

みちしるべ

みずからのために道しるべを置き みずからのために標柱をたてよ (エレミヤ31:21)

人になれ 奉仕せよ

聖句 : 空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。
だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。

(マタイによる福音書 6章26節)

保育目標 :

- | | | |
|-----|--------------------------------|----------------------|
| 0歳児 | ・保育者に見守られる中で、周りのものや人の動きに興味を持つ。 | |
| 1歳児 | ・保育者と一緒に好きな遊びを楽しむ。 | |
| 2歳児 | ・自分の思いや遊びが大切にされていることを感じる。 | |
| 3歳児 | ・先生や友だちと元気に遊ぶ。 | |
| 4歳児 | ・友だちと遊ぶ楽しさを知る。 | ・神さまからいただいた身体を大切にする。 |
| 5歳児 | ・友だちと一緒に遊びを工夫する。 | ・神さまからいただいた身体を大切にする。 |

目を上げると木々の中に新緑の若葉を見つけ、足元を見ると色とりどりの花々がいつの間にか私たちの周りにあふれています。心躍るような季節が、いつも通りやってきていました。神さまは言われます「明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である。」と。新型コロナウイルスの感染予防の対応に追われて、季節の移ろいを感じたり楽しんだりすることを少し忘れていました。保護者の皆さまにはこの期間、休園や自粛登園をお願い（ご理解ご協力で心より感謝しています）していましたが、それぞれのご家庭やご近所でお子さんと一緒に季節の移ろいを感じて楽しむことはできましたでしょうか？自然界は、新しい柔らかい命に満ちています。

先生たちは、準備をしている時も礼拝の祈りの中でも「お家にいる子どもたちに早く会いたい！」「みんな、元気であるかしら？」「どうぞ一人ひとりが守られていますように」と一人ひとりに想いをめぐらせていました。過日、5月末の期限を待たずに非常事態宣言が解除され、やっと子どもたちが園に戻って来られるようになりました（ご心配な方は無理をしないでお休みください）が、まだまだ、いくつか段階を踏んでいかななくてはなりません。ただ、こども園に子どもたちの笑顔が戻ってくることは何よりも嬉しいことです。こども園は子どもたちと大人が共にいて創り出す居場所なのだあらためて実感しました。ほっとひと息つき、私たちも笑顔になって新たな日常に一步踏み出しましょう。

6月になると、雨の降る日が増えますね。先日、園舎脇の駐車場に植えられている額アジサイの花びらが少し色付いていることに気が付きました。これから、どんどんと色が濃くなっていくことでしょう。綺麗に花が咲く日が楽しみです。

さて、雨が好きな生き物って何でしょう？かたつむり！カエル！アジサイ！…そして、子どもたち！大人にとって鬱陶しい雨も、子どもたちにとってはいつもと違う世界のとびらを開く素敵な鍵になります。傘をさして園庭を散歩したら、傘を地面に置いてカタツムリのようにその中に入ってみると…。なんだか不思議な空間に包まれ、耳を澄ますと頭の上から微かな音がしてきました。子どもたちが傘の中でじっとしている姿は、雨の音を楽しんでいるのかしら、それとも、ダンゴ虫が濡れないように守ってあげているのかしら。その穏やかな表情から傘の中が居心地の良い場所になっているのがわかります。また雨上がりも子どもたちにとって魅力的な空間ですね。子どもたちは、大小様々な形の水たまりを見つけると早速、その中へ！鏡のような水面に波紋が広がり、バシャバシャバシャッと長ぐつダンスが始まります。水が勢いよく長ぐつの中に入っても、平気な顔で楽しんでいる姿に思わず声をかけそうになりますが、ひと呼吸おいてそっとしておきました。すると、十分楽しんだ後に長ぐつの中の水を外にこぼしながら、ニコッと満足気に笑うその顔には『やりきった』という自信のようなものが感じられました。この季節にしかない味わえない事柄に、たくさん子どもたちを出会わせていきたいと思っています。

これからも、子どもたちが神さまに守られ大きくなっていきますようにと祈りつつ、保護者の方と共に6月を歩んでいきたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

園長 鈴木 直江